

2022年5月27日

The Emerging Markets Weekly

中国関連のヘッドラインに振らされる

新興国市場: 前週末 20 日、アジア時間の新興国通貨は総じて堅調。持ち直しがみられた前日の欧米時間の流れを引き継いだほか、中国における景気刺激策への期待感が支えとなった。KRW や IDR、THB が値を伸ばした。欧米時間の新興国通貨はまちまち。米株が一時下押しする動きをみせる等、一様にリスクテイクとはいかなかった。BRL は前日比+1%と続伸も、TRY、ZAR は小幅反落となった。週初 23 日、アジア時間の新興国通貨は小動き。中国の北京市におけるロックダウンの可能性が懸念された一方、バイデン米大統領が対中関税の見直しに言及したことは好感された。欧米時間の新興国通貨は大半が上昇。ラガルド ECB 総裁がブログで 7 月会合での利上げに言及し EUR 高が進んだほか、中国政府による追加景気対策が報じられたことが支援材料となった。BRL が前日比+1.4%と続伸、東欧通貨も大きく上昇、CNY は 3 日続伸となった。24 日、アジア時間の新興国通貨は上値の重い展開。予想を下回る米企業決算や中国におけるロックダウンへの懸念から株式市場が軟調で重しとなった。欧米時間は新興国通貨に持ち直しの動きも。EUR 高継続が東欧通貨を支えたほか、米金利低下と米株の下落幅縮小も追い風となった。もともと、TRY は前日比▲1%と続落、BRL や CNY も 4 営業日ぶりに前日比マイナス圏で取引を終えた。25 日、新興国通貨はアジア時間こそ FOMC 議事要旨の発表を控えて小動きも、欧米時間には軟調となった。複数の ECB 高官から利上げペースに関してやや慎重な姿勢が示され EUR が反落したほか、中国経済は幾つかの側面で 2020 年よりも悪化しているとの李首相の見解が伝えられ重しとなった。なお、FOMC 議事要旨の公表後は下落幅を縮小する動きがみられた。東欧通貨のほか、TRY や ZAR、CNY が下げた。26 日、アジア時間の新興国通貨は前日の流れを引き継ぎ冴えない動き。CNY の下落が目立った。欧米時間の新興国通貨は堅調に推移。米小売り企業の堅調な業績見通し発表に米株が続伸、市場のリスクセンチメントが改善した。BRL は前日比+1.2%上昇した。

アジア: 20 日発表の中国 5 月最優遇貸出金利(LPR)は、貸出の基準となる 1 年物が 3.70%と横ばい、住宅ローンの基準となる 5 年物は 4.45%と前月の 4.60%から低下した。23 日発表のシンガポール 4 月消費者物価指数(CPI)は前年比+5.4%と前月から横ばいも、シンガポール通貨庁(MAS)は外部からのインフレ圧力が依然強いと述べた。インドネシア中央銀行(BI)は 24 日、政策金利を 3.50%に据え置くことと決定。他方、預金準備率(RRR)を 7 月から 7.5%、9 月からは 9.0%に引き上げる。韓国銀行(BOK)は 26 日、政策金利を 25bp 引き上げ 1.75%にすると決定。インフレにより重点を置いた政策運営を行うとした。

中東欧・アフリカ: トルコ中央銀行(CBRT)は 26 日、政策金利を 14.00%に据え置くことと決定した。インフレ率の上昇は一時的要因によるとの見解を維持した。ロシア中央銀行(CBR)は 26 日、臨時会合を開催し、政策金利を 300bp 引き下げ 11.00%にすると決定した。RUB 相場動向と、家計・企業のインフレ期待の顕著な低下によるインフレ圧力の緩和が背景。追加利下げ余地にも言及した。

市場営業部

マーケット・エコノミスト

堀内 隆文

03-3242-7065

takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

マーケット・エコノミスト

堀 堯大

03-3242-7065

takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

大島 由喜

03-3242-7065

yuki.ooshima@mizuho-bk.co.jp

市場概観(新興国)

2022年4月のファンドフロー

市場営業部
 マーケット・エコノミスト
 堀内 隆文
 03-3242-7065
 takafumi.horiuchi@mizuho-bk.co.jp

2022年3月の新興国ファンドへの資金フローは+49.2億ドルと10か月連続で資金流入。流入額は前月(+7.4億ドル)から拡大した。株式ファンドが+122.8億ドルと10か月連続の流入。債券ファンドからの流出額は▲73.7億ドルと、2020年3月以来の流出額となった前月からは縮小した。

地域別ファンドへの資金フローでは、アジア(日本除く)が2か月ぶりの資金流入となった。株式への流入額が増加、債券からの流出額は縮小した。東欧・中東・アフリカは2か月連続の資金流入となった。債券からの流出額が大きく縮小、株式への流入額は増えた。ラテンアメリカも3か月連続の資金流入。債券が3か月ぶりの流入となった一方、株式への流入額は大きく縮小した。

国別ファンドへの資金フローでは、インドが3か月ぶりの資金流入となった。大幅な流出に見舞われていた債券が3か月ぶりに流入に転じた。また、中国は2か月ぶりの資金流入となった。債券からの流出額拡大が続くも、株式への流入拡大がそれを補った。一方、メキシコは3か月ぶりの資金流出となった。債券からの流出は縮小も、株式が3か月ぶりに流出に転じた。また、ロシアの資金流出は前月から拡大。株からの流出は縮小も、債券からの流出拡大が続いている。このほか、フィリピンやインドネシア、タイで資金流出がみられた。

なお、5月18日までのデータを基に5月に入ってから資金フローを試算したところ、新興国ファンドの資金流出が高水準となっている。債券が9か月ぶりの流入に転じるも、株式が11か月ぶりの流出に転じている。インドの寄与度が大きく、同国債券への流入額と株式からの流出額はいずれも過去最大規模となっている。地域別には、ラテンアメリカが4か月ぶりの資金流出となっている。

(注)各国・地域別のファンドフローのグラフについては、5月20日付通貨ニュースでご確認いただけます。

図表 1: 新興国各国・地域のファンドフロー(月次)

	3月 (%)	Zスコア (過去5年)		3月 (%)	Zスコア (過去5年)
新興国	0.02	-0.3	インドネシア	0.89	0.7
アジア(日本除く)	-0.27	-0.8	インド	-0.63	-0.8
中国	-0.26	-0.7	東欧・中東・アフリカ	0.16	0.5
韓国	-0.93	-0.4	ロシア	-0.18	0.3
台湾	5.53	0.7	トルコ	0.84	0.2
シンガポール	-0.17	-0.4	南アフリカ	0.65	0.4
フィリピン	-4.06	-0.9	ラテンアメリカ	1.20	1.0
タイ	-0.83	-0.3	メキシコ	1.32	0.2
マレーシア	4.63	1.1	ブラジル	-0.19	0.0

注: スコアは株式ファンドと債券ファンドへの資金流入額の前月比変化率で算出。

出所: EPFR、Macrobond、みずほ銀行

市場概観(フィリピン)

5月金融政策会合～18年以来の利上げを実施

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

フィリピン中央銀行(BSP)は19日に開催した金融政策会合で、政策金利の翌日物リバースレポレートを従来の2.00%から2.25%へ引き上げた(図表1)。政策金利は12会合ぶりに変更され、利上げは18年11月ぶりとなった。同時に上限金利の翌日物貸出ファシリティ(OLF)レートおよび下限金利の翌日物預金ファシリティ(ODF)レートも同じ幅だけ引き上げてそれぞれ2.75%と1.75%とした。なお、ブルームバーグの事前予想では利上げの予想が有力であった。

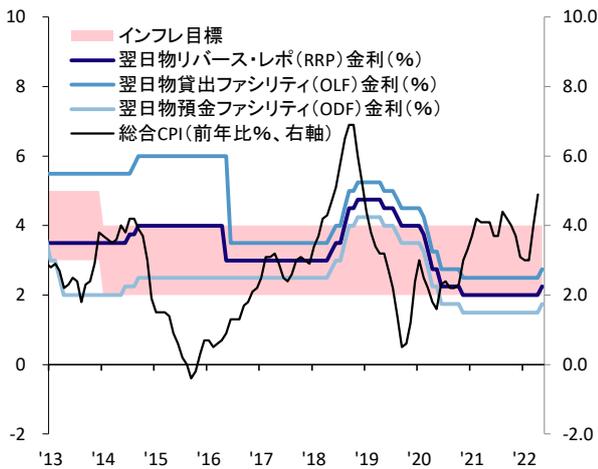
声明文では、国内経済の堅調な回復について言及された。22年1～3月期GDPは前年比+8.3%となり、4四半期連続でプラスを維持(図表1)。内訳をみると個人消費が同+7.5%と引き続き強い伸びを記録し、国内の新型コロナウイルスの感染拡大がありながら経済活動の正常化が進展していることを裏付ける内容となった。ジョグノBSP総裁は会見で1～3月期GDPの結果に加え、都市部での雇用環境が力強く回復している点にも言及している。

片や、インフレ動向については前回3月会合以降もペースが加速しており、BSPは2会合連続でインフレ予想を引き上げることを発表した。22年と23年の物価上昇率はそれぞれ前年比+4.6%(従来比+0.3%ポイント)、+3.9%(同+0.6%ポイント)に上方修正された。4月消費者物価指数は前年比+4.9%と18年12月以来の水準まで上昇しており、エネルギー価格上昇を起因とした輸送・交通部門でのインフレが目立っているが、図表3からは広範にわたり物価上昇圧力が強まっていることが確認できる。労働賃金上昇による二次的なインフレ懸念も指摘されており、こうした状況も今回の利上げを判断する材料となったのだろう。ジョグノ総裁も根強いインフレ圧力は迅速な金融政策で抑制させる必要があるといった旨の発言をしている。

今後の政策運営に関しては、景気や物価関連の経済指標を参照しつつ金融政策の一段の正常化を模索するとともに、コロナ対応を目的とする政策介入を縮小する方針を示唆した。BSPはコロナ禍において量的緩和にも踏み切っており、今後の利上げのペースとともに量的緩和の終了も検討されていくのだろう。急激な景気後退がなければ年内に50bps程度の追加利上げも想定される。

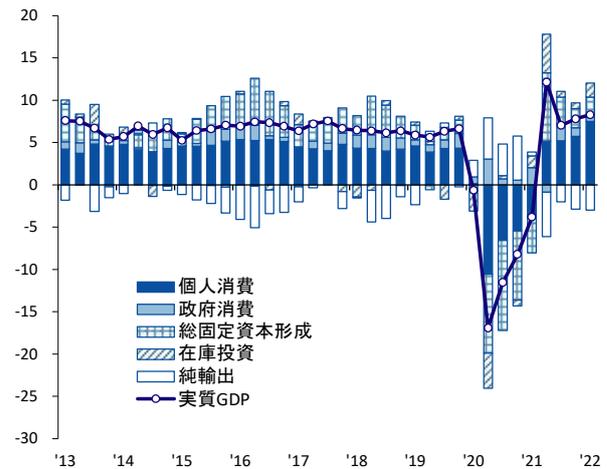
PHPは軟調地合いが続くが対ドルでの下落はやや落ち着きつつある(図表4)。PHP相場は19年8月以来の水準まで下落していることもあり、依然ウクライナ危機の長期化や中国経済の減速懸念に伴うリスクオフムードは根強い。FRBのタカ派傾斜を織り込んだ米金利上昇にピークアウトの兆候が出てきてドル高に調整が入りつつあるが、BSPにとって今回の利上げは足許のPHPの水準を是正したい思惑もあったものと思われる。ここまで対外要因に振られる相場展開となったが、7～9月期以降は変化が見られつつある国内のファンダメンタルズとともにBSPの政策動向がPHP相場に及ぼす影響も次第に強まるものと考えたい。

図表 1: 政策金利水準とインフレ目標



出所: フィリピン中央銀行、フィリピン国家統計局、ブルームバーグ、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率の推移 (前年比%、%ポイント)



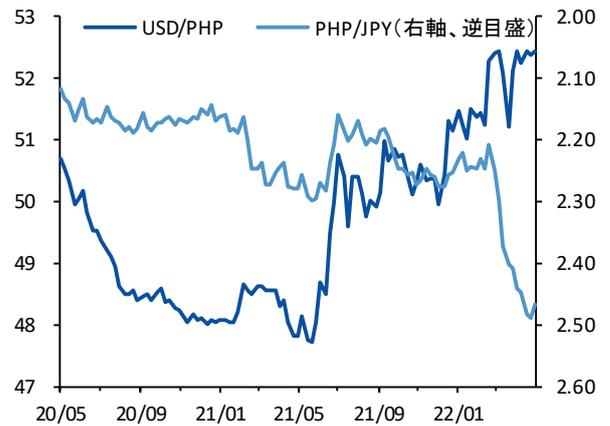
出所: CEIC、みずほ銀行

図表 3: 消費者物価上昇率の推移 (前年比%、%ポイント)



出所: CEIC、みずほ銀行

図表 4: PHP 相場動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

市場概観(インドネシア)

5月金融政策会合～預金準備率の引き上げ幅を拡大

市場営業部
マーケット・エコノミスト
堀 堯大
03-3242-7065
takahiro.hori@mizuho-bk.co.jp

インドネシア銀行(中央銀行、BI)は23～24日に開催した金融政策会合で、政策金利の7日物リバースレポレートに15回連続で3.50%に据え置いた(図表1)。上限金利の翌日物貸出ファシリティ金利と下限金利の翌日物預金ファシリティ金利も現状維持となった。ブルームバーグの事前予想でも現状維持が優勢であった。引き続き、BIが16年に7日物リバースレポレートを主要政策金利とした以降では過去最低の金利水準となっている。また、BIは預金準備率の引き上げ幅を拡げることを発表した。預金準備率は今年9月には9%(イスラム銀行については7.5%)まで引き上げられることとなる。

声明文ではウクライナ危機の長期化と米国をはじめとする先進各国の金融政策の正常化、ゼロコロナ政策を推し進めることによる中国経済の減速懸念が世界経済にとってリスク要因となっている点に言及。特に米国の金融政策の正常化は市場心理を冷や込ませるものとして、インドネシア金融市場への影響も含めて注視していく方針が示されている。

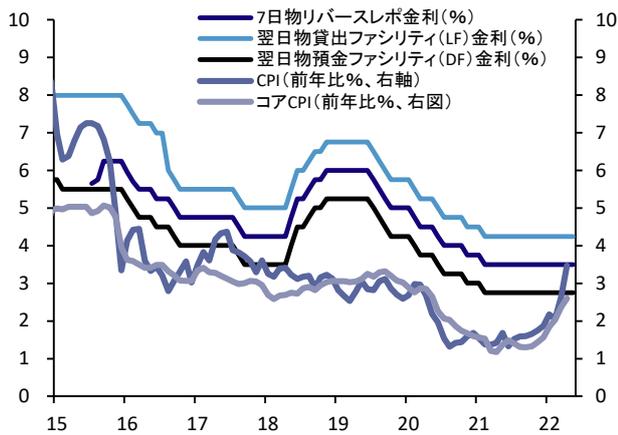
国内経済については会合前に1～3月期GDPが公表されており、前年同期比+5.0%の結果となった(図表2)。内訳をみると、個人消費が同+4.4%で堅調な経済成長を下支えしたほか、資源価格の高騰が進む中で、輸出が同+16.2%の強い伸びを見せた。BIもオミクロン株の感染抑制以降、景気回復は続いていると総括し、22年の成長率見通しを前年比+4.5～+5.3%に据え置いた。

消費者物価指数(CPI)は引き続き騰勢を強めている。4月CPIは前年比+3.5%となり、17年12月以来の伸びを記録した(図表3)。内訳を見ると食品やエネルギー関連の項目での上昇が目立つが、それらを除いたコアCPIも同+2.6%と3月の同+2.4%から段階的に上昇している。この点について、ペリーBI総裁はインフレ加速懸念を示したが、管理可能な水準にあり、来年にかけて物価上昇率はBIの定める目標レンジ(+2.0%～4.0%)に収まるとした。また、ASEAN域内でもインフレ対応のために利上げに着手した国が出ているが、現状では政策金利の調整を通じたインフレ対応の必要性は低いと述べている。

もともと、BIの政策スタンスには変化の兆候が見られつつある。今回公表の声明文では緩和的(accommodative)な金融政策を維持するといった記載はなく、今後の政策指針も為替の安定やインフレ抑制に注力していく姿勢が色濃く出ている印象がある。今回の預金準備率の引き上げ幅拡大はこの方針を汲んだ決定であると見られ、市場への流動性供給量の正常化を通じてIDRの安定性を維持することを意図しているであろう。

足許の為替相場を見ても、資源需要の高まりによってIDRの実需は堅調であり、リスクオフムードが強まる相場展開だがIDRは大きく値を下げることなく推移している(図表4)。こうした状況もBIが米国に追随した利上げを急がず、景気支援にも最大限配慮した政策スタンスを維持できている要因であると見られる。今後にかけても、世界的なインフレ高進と景気減速懸念が燃る中で、国内の経済・物価およびIDRの動向を見ながら段階的に金融政策の正常化の機会を模索していくものと考えられる。

図表 1: 政策金利と消費者物価の推移



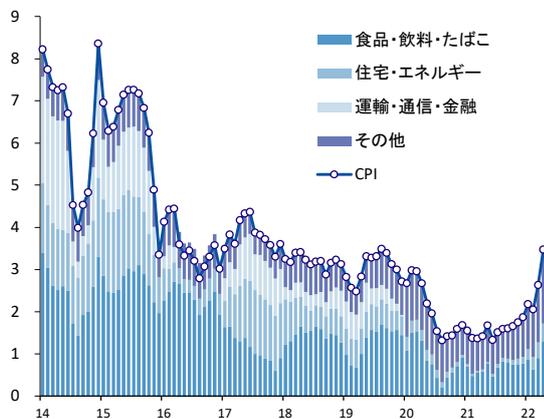
出所: インドネシア銀行、Bloomberg、みずほ銀行

図表 2: 実質 GDP 成長率 (前年比%、%ポイント)



出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

図表 2: 消費者物価の動向 (前年比%、%ポイント)



出所: インドネシア中央統計局、CEIC、みずほ銀行

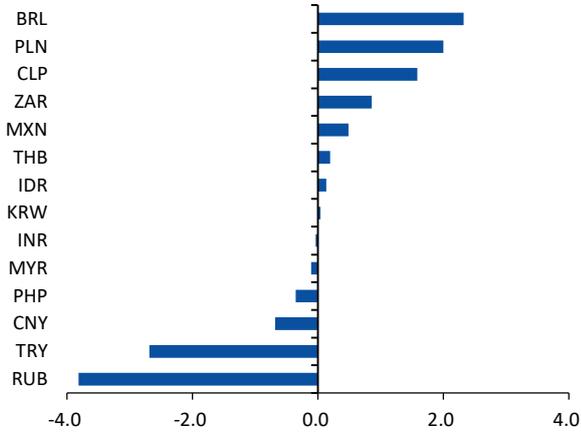
図表 4: IDR の動向



出所: Bloomberg、みずほ銀行

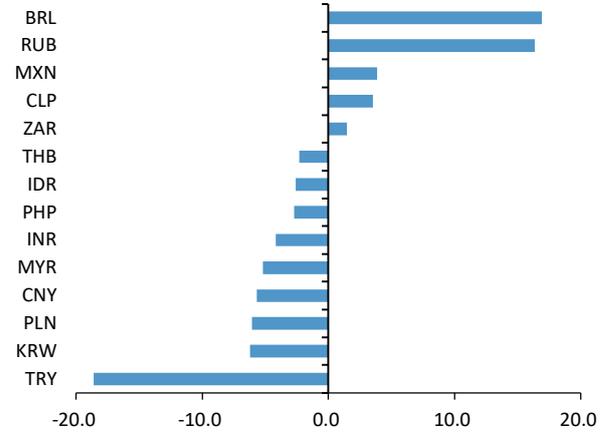
資産別騰落率

為替週間騰落率(対ドル、%)



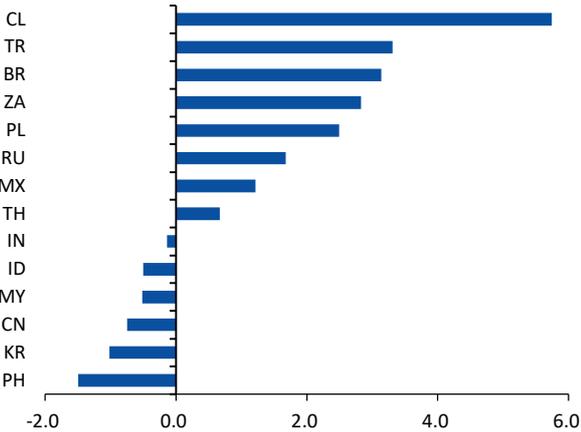
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

為替年初来騰落率(対ドル、%)



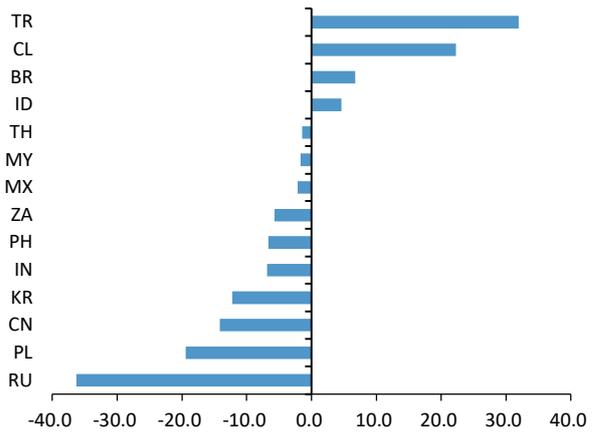
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価週間騰落率(%)



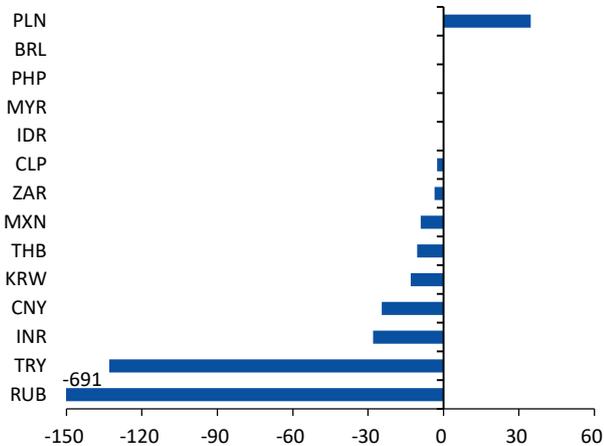
出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

株価年初来騰落率(%)



出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

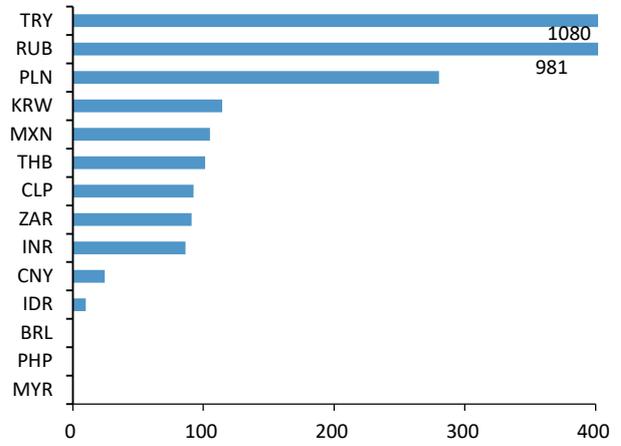
5年物スワップレート週間変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

5年物スワップレート年初来変化(bp)



注: データの都合によりブラジルの値は未掲載。

出所: ブルームバーグ、みずほ銀行

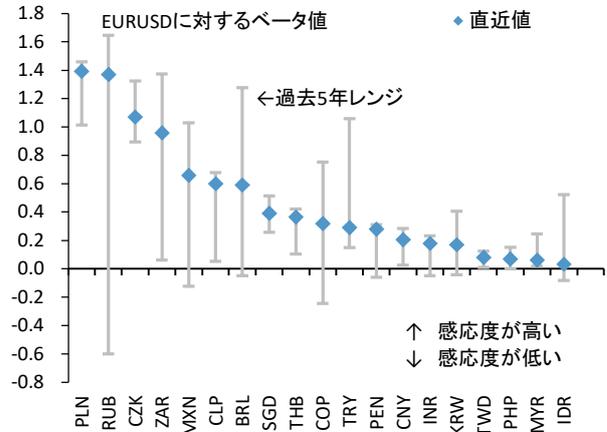
チャート集

主要新興国への証券投資(4週間移動平均)



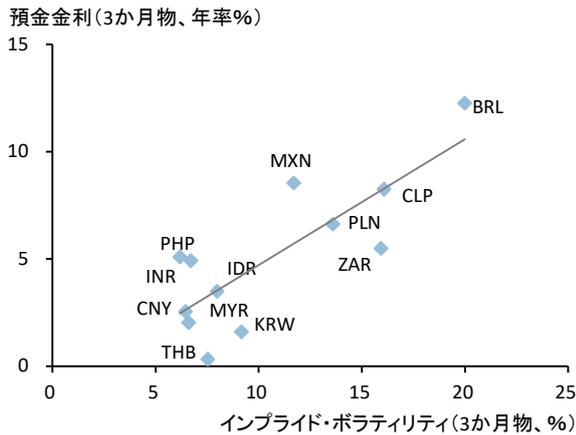
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

EM通貨(対ドル)のEURUSDに対する感応度(過去12か月)



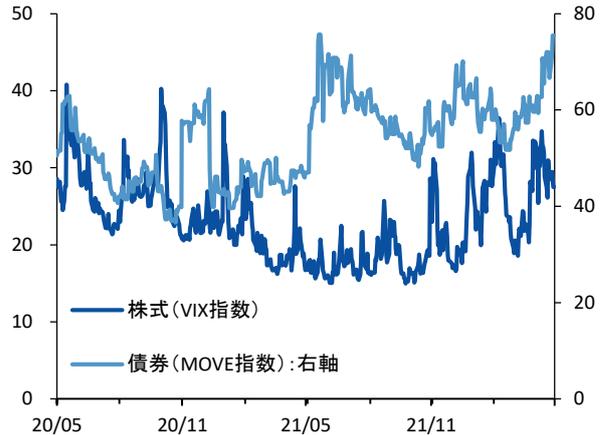
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国の預金金利と為替ボラティリティ



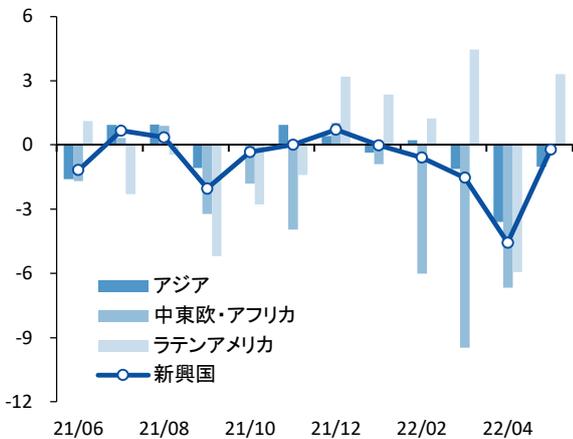
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

株式と債券のボラティリティ(VIX指数、MOVE指数)



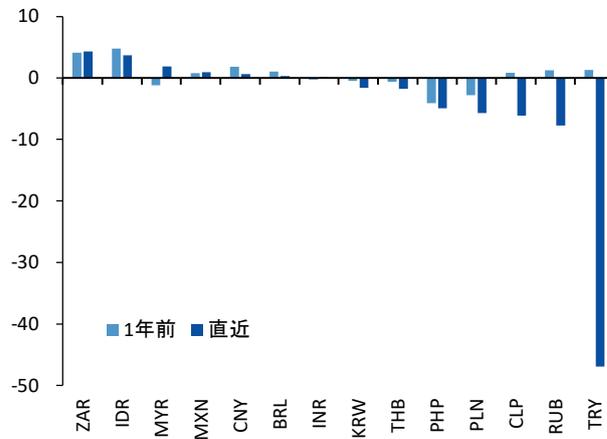
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国現地通貨建て国債月次パフォーマンス(%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

実質金利(10年物国債金利 - 消費者物価上昇率、%)



出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

新興国経済カレンダー

日付	国	経済指標・イベント	市場予想	発表値	前回値	修正値
エマージングアジア						
5月23日 (月)	シンガポール	CPI(前年比)	5.5%	5.4%	5.4%	--
23-25日	タイ	貿易収支(通関ベース)	-\$621m	--	\$1460m	\$1459m
24日 (火)	インドネシア	インドネシア銀行7日物リハースレホ ^o	3.50%	3.50%	3.50%	--
25日 (水)	韓国	景況判断(製造業)	--	87	88	--
25日 (水)	韓国	景況判断(非製造業)	--	86	85	--
25日 (水)	シンガポール	GDP(前年比)	3.7%	3.7%	3.4%	--
25日 (水)	マレーシア	CPI(前年比)	2.3%	2.3%	2.2%	--
25-27日 (水)	フィリピン	財政収支(フィリピンペソ)	--	--	-187.7b	--
26日 (木)	シンガポール	鉱工業生産(前年比)	3.7%	6.2%	3.4%	--
26日 (木)	韓国	韓国銀行7日間レホレート	1.75%	1.75%	1.50%	--
27日 (金)	中国	工業企業利益(前年比)	--	--	--	--
27日 (金)	台湾	GDP(前年比)	3.1%	--	3.1%	--
31日 (火)	韓国	鉱工業生産(前年比)	--	--	3.7%	--
31日 (火)	中国	製造業PMI	--	--	47.4	--
31日 (火)	中国	非製造業PMI	--	--	41.9	--
31日 (火)	タイ	国際収支:経常収支	--	--	\$1245m	--
6月1日 (水)	韓国	貿易収支	--	--	--	-\$2508m
1日 (水)	中国	Caixin中国製造業PMI	--	--	46.0	--
2日 (木)	インドネシア	CPI(前年比)	--	--	3.5%	--
3日 (金)	韓国	CPI(前年比)	--	--	4.8%	--
3日 (金)	シンガポール	小売売上高(前年比)	--	--	8.7%	--
中東欧・アフリカ						
5月23日 (月)	トルコ	製造業景況感指数(季調前)	--	109	109.7	--
23日 (月)	トルコ	設備稼働率	--	78.0%	77.8%	--
23日 (月)	トルコ	外国人観光客(前年比)	--	225.6%	129.7%	--
25日 (水)	ロシア	PPI 前年比	26.9%	31.5%	26.7%	--
26日 (木)	南ア	PPI 前年比	12.0%	13.1%	11.9%	--
26日 (木)	トルコ	1週間レホレート	14.00%	14.00%	14.00%	--
31日 (火)	トルコ	貿易収支	--	--	-8.17b	--
31日 (火)	トルコ	GDP(前年比)	--	--	9.1%	--
31日 (火)	南ア	貿易収支(ラント)	--	--	45.9b	--
6月1日 (水)	ロシア	実質小売売上高(前年比)	--	--	2.2%	--
2日 (木)	ロシア	鉱工業生産(前年比)	--	--	3.0%	--
3日 (金)	トルコ	CPI(前年比)	--	--	70.0%	--
3日 (金)	トルコ	PPI 前年比	--	--	121.8%	--
ラテンアメリカ						
5月23-28日	ブラジル	経常収支	\$300m	--	-\$2414m	--
24日 (火)	ブラジル	IBGEインフレ率IPCA-15(前月比)	0.5%	0.6%	1.7%	--
25日 (水)	メキシコ	GDP(季調前/前年比)	1.7%	1.8%	1.6%	--
25日 (水)	メキシコ	貿易収支	539.5m	-1884.1m	198.7m	104.5m
26日 (木)	メキシコ	小売売上高(前年比)	3.5%	3.8%	6.4%	--
30日 (月)	ブラジル	FGVインフレIGPM(前年比)	--	--	14.7%	--
31日 (火)	ブラジル	純債務対GDP比	--	--	58.2%	--
6月1日 (水)	ブラジル	貿易収支(月次)	--	--	\$8148m	--
2日 (木)	ブラジル	GDP(前年比)	--	--	1.6%	--
3日 (金)	ブラジル	鉱工業生産(前年比)	--	--	-2.1%	--

注:2022年5月27日現在、信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性を全面的に保証するものではありません。
出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

為替相場見通し

	2022年 1~4月(実績)	SPOT	2022年 6月	9月	12月	2023年 3月	6月
対ドル							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	6.3065 ~ 6.6505	6.7389	6.65	6.70	6.70	6.73	6.75
香港ドル (HKD)	7.7825 ~ 7.8484	7.8494	7.85	7.85	7.85	7.84	7.83
インドルピー (INR)	73.779 ~ 76.981	77.578	78.3	77.5	76.2	75.3	74.4
インドネシアルピア (IDR)	14250 ~ 14513	14633	14750	14680	14390	14300	14150
韓国ウォン (KRW)	1185.81 ~ 1274.58	1267.60	1280	1300	1300	1310	1300
マレーシアリングギ (MYR)	4.1645 ~ 4.3685	4.3940	4.43	4.38	4.30	4.26	4.26
フィリピンペソ (PHP)	50.753 ~ 52.491	52.410	53.3	52.8	52.4	52.0	51.7
シンガポールドル (SGD)	1.3408 ~ 1.3905	1.3726	1.41	1.40	1.37	1.35	1.35
台湾ドル (TWD)	27.496 ~ 29.594	29.490	29.2	29.4	29.5	29.8	30.0
タイバーツ (THB)	32.09 ~ 34.50	34.20	34.9	35.3	34.6	34.0	33.8
ベトナムドン (VND)	22627 ~ 22982	23205	23250	22950	22700	22600	22550
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	70.0575 ~ 177.2606	64.5959	80.0	82.0	85.0	87.0	89.0
南アフリカランド (ZAR)	14.4025 ~ 16.1331	15.7165	15.8	15.4	16.2	16.6	17.0
トルコリラ (TRY)	12.8029 ~ 14.9932	16.3652	15.0	15.4	15.8	16.0	16.5
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	4.5853 ~ 5.7239	4.7693	5.05	5.30	5.20	5.10	5.05
メキシコペソ (MXN)	19.7274 ~ 21.4676	19.7783	20.5	20.8	20.9	20.8	20.7
対円							
エマージングアジア							
中国人民元 (CNY)	17.867 ~ 20.201	18.897	19.70	19.70	19.85	20.07	19.56
香港ドル (HKD)	14.576 ~ 16.726	16.183	16.70	16.83	16.95	17.22	16.86
インドルピー (INR)	1.491 ~ 1.715	1.642	1.67	1.70	1.75	1.79	1.77
インドネシアルピア (100IDR)	0.792 ~ 0.905	0.870	0.888	0.899	0.924	0.944	0.933
韓国ウォン (100KRW)	9.322 ~ 10.464	10.021	10.23	10.15	10.23	10.31	10.15
マレーシアリングギ (MYR)	27.109 ~ 30.332	28.800	29.57	30.14	30.93	31.69	30.99
フィリピンペソ (PHP)	2.202 ~ 2.500	2.416	2.46	2.50	2.54	2.60	2.55
シンガポールドル (SGD)	84.19 ~ 94.61	92.54	92.91	94.29	97.08	100.00	97.78
台湾ドル (TWD)	4.060 ~ 4.441	4.315	4.49	4.49	4.51	4.54	4.40
タイバーツ (THB)	3.416 ~ 3.828	3.711	3.75	3.74	3.84	3.97	3.91
ベトナムドン (10000VND)	0.5005 ~ 0.5711	0.5478	0.56	0.58	0.59	0.60	0.59
中東欧・アフリカ							
ロシアルーブル (RUB)	0.680 ~ 1.850	1.967	1.64	1.61	1.56	1.55	1.48
南アフリカランド (ZAR)	7.190 ~ 8.806	8.081	8.29	8.57	8.21	8.13	7.76
トルコリラ (TRY)	7.639 ~ 9.008	7.764	8.73	8.57	8.42	8.44	8.00
ラテンアメリカ							
ブラジルリアル (BRL)	20.216 ~ 27.844	26.643	25.94	24.91	25.58	26.47	26.14
メキシコペソ (MXN)	5.377 ~ 6.489	6.422	6.39	6.35	6.36	6.49	6.38

注:1. 実績の欄は2022年4月30日まで。SPOTは5月27日の8時30分頃。

2. 実績値はブルームバーグの値。

3. 予想の欄は四半期末の予想。

出所:ブルームバーグ、みずほ銀行

当資料は情報提供のみを目的として作成したものであり、特定の取引の勧誘を目的としたものではありません。当資料は信頼できると判断した情報に基づいて作成されていますが、その正確性、確実性を保証するものではありません。ここに記載された内容は事前連絡なしに変更されることもあります。投資に関する最終決定は、お客様ご自身の判断でなさるようお願い申し上げます。また、当資料の著作権はみずほ銀行に属し、その目的を問わず無断で引用または複製することを禁じます。なお、当行は本情報を無償でのみ提供しております。当行からの無償の情報提供を望まれない場合、配信停止を希望する旨をお申し出ください。